

サムエル記第一 (14)

「王を求める民」

1 サム 8 : 1～18

1. 文脈の確認

I. 王政に向けた準備 (1～9 章)

- A. サムエルの誕生と幼少期 (1 章)
- B. ハンナの賛歌 (2 : 1～10)
- C. シロでの霊的状况 (2 : 11～36)
- D. サムエルの召し (3 章)
- E. 契約の箱 (4～7 章)
- F. 王の選択 (8～9 章)
 - 1. 王を求める民 (8 : 1～18)
 - 2. 民の願いを受け入れる神 (8 : 19～9 : 14)
 - 3. サウルの選び (9 : 15～27)

2. 注目すべき点

- (1) イスラエルの歴史が新しい段階に入る。
 - ①神政政治 (神が王である体制) から、人間の王を持つ国家への転換点となる。
 - ②1～7 章は「士師サムエル」、8 章以降は「王政への移行」が主題となる。
- (2) サムエルの高齢と後継者問題がきっかけとなった。
 - ①サムエルの息子たちは、父の信仰を受け継がなかった。
 - ②エリの息子たちにつき、サムエルの息子たちも、父の信仰を受け継がなかった。
- (3) 民の要求には正当な部分と誤った部分があった。
 - ①指導者の交代を求めたこと自体は理解できる。
 - ②しかし、「ほかの国々のように王を」という願いは、間違っていた。
 - ③問題は「王を求めたこと」ではなく、「どのような理由で求めたか」である。

命題：神の民は、人間的な安心よりも神の統治を信頼すべきである。

民の要求とサムエルの警告を通して、この真理が正しいことを学ぼう。

I. 民の要求 (1～9 節)

1. 1～3 節

1Sa 8:1 サムエルは、年老いたとき、息子たちをイスラエルのさばきつかさとして任命した。

1Sa 8:2 長男の名はヨエル、次男の名はアビヤであった。彼らはベエル・シェバでさばきつかさをしていた。

1Sa 8:3 しかし、この息子たちは父の道に歩まず、利得を追い求め、賄賂を受け取り、さばきを曲げていた。

(1) サムエルは年老いた。

- ①恐らく 65～70 歳くらいであろう。
- ②彼は、後継者として息子たちをさばきつかさとして任命した。
- ③長男の名はヨエル、次男の名はアビヤであった。
- ④彼らはベエル・シェバ（ユダの地）でさばきつかさをしていた。

(2) 息子たちは父の道に歩まなかった。

- ①利得を追い求めた。
- ②賄賂を受け取った。
- ③さばきを曲げていた。

(3) 民は、エリの息子たちのことを思い出したに違いない。

- ①サムエルもまた息子たちの養育に失敗した。
- ②民は、国がサムエル以前の状態に戻ることを危惧した。

2. 4～5 節

1Sa 8:4 イスラエルの長老たちはみな集まり、ラマにいるサムエルのところにやって来て、

1Sa 8:5 彼に言った。「ご覧ください。あなたはお年を召し、ご子息たちはあなたの道を歩んでいません。どうか今、ほかのすべての国民のように、私たちをさばく王を立ててください。」

(1) イスラエルの長老たちは、王を立てて欲しいと願った。

- ①サムエルは高齢で、さばきつかさの役割を果たせなくなった。
*ペリシテ人の脅威が増しているので、力強いリーダーが必要である。
- ②後継者の息子たちには、道徳的な問題がある。
*サムエルの存命中に問題を解決しておく必要がある。

(2) 彼らは、「ほかのすべての国民のように」と言った。

- ①これは、他の異邦人諸国のようにという意味である。
- ②これはサムエルに対する反逆である以上に、神の王権を拒否する反逆である。

3. 6 節

1Sa 8:6 彼らが、「私たちをさばく王を私たちに与えてください」と言ったとき、そのことばはサムエルの目には悪しきことであった。それでサムエルは【主】に祈った。

(1) サムエルは、長老たちのことばを喜ばなかった。

- ①これほど重要なことであれば、まず【主】の御心を求める必要がある。
- ②しかし、長老たちは祈らないで、政治的に判断を下しただけである。
- ③イスラエルの民は、すでに王政よりも素晴らしい政治形態を与えられている。
- ④神政政治においては、神が王であり、さばきつかさは代理人である。
- ⑤民が従順であれば、【主】が勝利をもたらす。
- ⑥しかし民は、【主】の守りは不十分であると考えたのである。

(2) サムエルは、【主】に祈った。

- ①自分と息子たちが退けられることは、喜ばしいことではない。
- ②しかし彼は、預言者として神と民の間に立ち、御心を求めた。

4. 7～9 節

1Sa 8:7 【主】はサムエルに言われた。「民があなたに言うことは何であれ、それを聞き入れよ。なぜなら彼らは、あなたを拒んだのではなく、わたしが王として彼らを治めることを拒んだのだから。

1Sa 8:8 わたしが彼らをエジプトから連れ上った日から今日に至るまで、彼らのしたことといえば、わたしを捨てて、ほかの神々に仕えることだった。そのように彼らは、あなたにもしているのだ。

1Sa 8:9 今、彼らの声を聞き入れよ。ただし、彼らに自分たちを治める王の権利をはっきりと宣言せよ。」

(1) 【主】からの回答があった。

- ①民が言うことは何であれ、聞き入れよ。
- ②彼らは、サムエルを拒んだのではない。
- ③【主】を王とすることを拒んだのである。
 - *モーセの律法に従うことを拒んだ。
- ④人間の王がもたらす軍事力によって、敵から国を守ることを選んだのである。

(2) 彼らは、出エジプトから今日に至るまで、同じ罪を犯してきた。

- ①彼らは、【主】を捨てて、偶像の神々に仕えてきた。
- ②サムエルに対しても、同じことをしている。

(3) 彼らの願いを聞き入れてよいが、警告のことばを発すべきである。

- ①王政には多くの問題が潜んでいる。
- ②王の権利は、民を苦しめることになる。

II. サムエルの警告 (10～18 節)

1. 10 節

1Sa 8:10 サムエルは、自分に王を求めるこの民に対して、【主】のすべてのことばを話した。

(1) サムエルは、【主】と民の間に立って、預言者としての使命を果たした。

①彼は、「【主】のすべてのことばを話した」。

②「取る」という動詞が六回も繰り返される。

2. 11～12 節

1Sa 8:11 彼は言った。「あなたがたを治める王の権利はこうだ。あなたがたの息子たちを取り、戦車や軍馬に乗せ、自分の戦車の前を走らせる。

1Sa 8:12 また、自分のために千人隊の長や五十人隊の長として任命し、自分の耕地を耕させ、自分の刈り入れに従事させ、武具や戦車の部品を作らせる。

(1) 民を治める王の権利

①息子たちを取り、兵役に就かせる。

②王の耕地で働く農夫とする。

③武具や戦車の部品を作る職人とする。

3. 13 節

1Sa 8:13 また、あなたがたの娘たちを取り、香料を作る者や料理する者やパンを焼く者とする。

(1) 民を治める王の権利

①娘たちを取り、家事労働に就かせる。

* 香料を作る者、料理する者、パンを焼く者とする。

4. 14～17 節

1Sa 8:14 あなたがたの畑やぶどう畑や良いオリーブ畑を没収し、自分の家来たちに与える。

1Sa 8:15 あなたがたの穀物とぶどう畑の十分の一を取り、廷臣や家来たちに与える。

1Sa 8:16 あなたがたの奴隷や女奴隷、それにあなたがたの子牛やろばの最も良いものを取り、自分の仕事をさせる。

1Sa 8:17 あなたがたの羊の群れの十分の一を取り、あなたがた自身は王の奴隷となる。

(1) 民を治める王の権利

①畑やぶどう畑やオリーブ畑を没収し、自分の家来たちに与える。

②奴隷や女奴隷、子牛やろばの最良のものを取り、王の仕事をさせる。

③羊の群れの十分の一を取り、民は王の奴隷となる。

5. 18 節

1Sa 8:18 その日、あなたがたが自分たちのために選んだ王のゆえに泣き叫んでも、その日、

【主】はあなたがたに答えはしない。」

(1) 民は、自らの選びについて責任を負うことになる。

① 圧政のゆえに泣き叫んでも、自分の選択の結果まで取り除かれることはない。

② この状況は、北王国イスラエルで顕著なものとなる。

結論：今日の信者への適用

1. 神よりも人間的な方法に頼っていないかを点検しよう

(1) 神の御心を待たずに人間的な知恵だけで決断する。

(2) 祈りよりも計画を優先する。

(3) 神への信頼よりも、お金、地位、人脈、能力に安心を見いだす。

2. 「周囲と同じでありたい」という誘惑に注意しよう

(1) イスラエルは、「ほかのすべての国民のように」と言った。

(2) これは、聖書が繰り返し警告する同調圧力である。

(3) 現代の同調圧力

① 世間の価値観

② 成功の基準

③ 流行

④ 多数派の意見

(4) 信者は、「世に属している」のではなく、「世に遣わされている」存在である。

3. 神の警告に耳を傾けよう

(1) サムエルは、王政の危険性を詳しく語った (9～18 節)。

(2) 神は裁きを下す前に、必ず警告を与えられる。

(3) 今日神は、警告を発してくださる。

① 聖書

② 聖霊の導き

③ 健全な牧会者や信仰の友

4. 自由意志を愛のために用いよう

(1) 神は人間の自由意志を尊重される。

(2) 神が許容されることと、神が喜ばれることは区別しなければならない。

(3) 自由意志は、イエスを信じ、愛を実践するために与えられている。

5. キリストを王として受け入れよう。

(1) 救済史の流れ

①サムエル記→ダビデ契約→メシア誕生→メシアの受難→メシアの再臨

(2) キリストは、千年王国を統治する王である。